



第5期研究プロジェクト **私たちが大切にしたい心の育ちとは何か**

「子どもの心の育ち」がテーマなんだけど・・・

そもそも「心の育ち」という言葉を
どう使っているの？

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」が出されたけれど
「心の育ち」ってどのようなことなの？

みんなイメージしていることが
違うのでは？



目に見えない心を
どう見ていくの？

1人ひとつ事例を書いて みんなで語り合いました

「できないかもしれない・・・」と動けなくなってしまう子どもの事例が多いように感じるね。目に見える行為で評価されることが多いのかな。家庭などの背景も含めて考えていくことが大事だね。

小学校の先生と園の先生とが子どもの姿を通して語り合いを重ねていくことで、それぞれが子どもの姿をどう捉え、何を大切に、具体的にどう関わっているのかを知り、感じられるようになってきた。これがどこの園校の間でもできるととてもいいのにな。具体的な連携や引き継ぎのアイデアや方法を例示してはどうか。

「自信をもつ」という言葉が良く出てくるけれど、同じ「自信」でも3歳児と4年生とは違うよね。そこを比較してみてもうどうだろう。

新しいことに消極的だった子どもが「頑張るようになった」けれど、「人に認められたいから嫌なことでもしぶしぶ我慢してやっている」のか、「ちょっと嫌なこともあるけれど、やってみるとそれ以上にすごく楽しくて、世界がぐんと広がった」のかでは大きく違うよね。

3歳児の頃にはこだわりが強く人との関係が持ちにくかった子どもが、5歳児の終わりには他の子どもと共に生活している事例を聞いて、1年生の担任が育ちの過程を知っていると、入学の頃に少し前の姿が見られても、焦らず支援の手立てができるなと感じたよ。

子どもの心に足りていないもの、もう少し動いて欲しいと思う心をしっかりと見極めて、直感的に言葉をかけたり、かかわったりしているね。そこをもっと掘り下げて言語化することで、子どもの心と共に先生の心も見えてくるんじゃないかな。

1年次の気づきと課題をまとめて

2年次へと続きます

『こんなとき あなたなら どう寄り添いますか?』

講師:大倉 得史 さん(京都大学大学院教授)



こんなとき
あなたなら
どう寄り添いますか

~気持ちに寄り添う子育て支援~

第4期子育て支援研究プロジェクトで作成した冊子『こんなとき あなたなら どう寄り添いますかー気持ちに寄り添う子育て支援ー』のミニエピソードを活用してグループ討議を行い、基になったエピソード記述を用いて解説をしながら、心に寄り添う子育て支援について御講義いただきました。



ミニエピソード

あなたなら
どう寄り添
いますか?

アドバイスばかりが
子育て支援ではない

まずは心配、悩みを
受け止めることが前提

前向きになるためには、
前向きになれない気持ちを
あるがままに受け止め
てもらえることが必要

研修の様子 と 参加者の声

親の主体性も大事に受け止めるという視点を今後新たに意識していきたい



気持ちに寄り添うことを改めて深く学び、また職場で共有したい



支援される側の保護者の視点を改めて感じさせられた

大倉先生の研修を毎年受講しているが、いつも新たな発見、気づきがあって勉強になる



他園の先生方と交流できて様々な話が出来たのが良かった

『保幼小連携・接続をするのは何のため？』

講師：田村 学 さん(國學院大學教授)

保幼小連携・接続を何のためにするのか、またどのようにするのかを一言で言えば「幼児期の教育に学ぶ」ということです。今回の小学校以降の学習指導要領には幼児期の教育が参考にされました。幼児期から小学校低学年にかけての学びが、将来に大きく影響するのではないかというのが、今回の改訂の大きなポイントの一つでした。

これまでの学校教育では、子どもは未熟で力のない存在であるため、先生が身に付けさせると捉えられがちでした。今回の改訂では、子どもは有能で力のある存在であり、活動の中でその力を存分に発揮し続ける中で、資質・能力が身に付いていくという発想の転換が求められました。これは幼児期の教育において大切にしてきたことです。

学びにおいて重要なのは「体験」と「言葉」です。体験は将来の認知能力や身体能力に大きく影響すると言われていています。幼児期には圧倒的に体験が優位です。様々な対象にかかわって体験する瞬間瞬間に頭の中に知識・技能の粒が生まれるとイメージしてみてください。大きくなるに従って、そこに言葉が入ってくるようになります。体験で得た情報を頭の中で処理をして自分の言葉にすることで、何となく感じていたことが明確になります。またその表した言葉を使って他の人と共有することもできます。体験から生まれた一つひとつの知識・技能の粒が様々につながっていくイメージです。個々の事実的で個別的な知識・技能も大事ですが、一つひとつの知識・技能がつながることで概念的で構造的な知識・技能になります。それが「深い」学びだと捉えています。

今回の要領等の改訂を受けて、小学校では保幼小連携・接続を積極的に進めようとしてきています。1年生を受け入れるにあたってのスタートカリキュラムが作成されてきています。そこで参考にされているのが幼児期の教育です。幼児期の教育に携わっている先生方が、ある意味自信を持ち、自身の取組を積極的に発信していただきたいと思っています。幼児期の教育を見てもらうことこそが、小学校、中学校、高等学校に好ましい影響を与えます。また、特定の園・校との連携・接続が難しいことがあるかもしれません。「だからできない」ではなく、園の先生は小学校ではどのような学びをするのかを意識して幼児期を存分に育てておくこと、小学校の先生は幼児期にどのような学びをしてきているのかを意識して引き継いでいくことを大事にして欲しいと思います。ぜひ一緒に進めていってください。

講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。 [要録ページへ](#)

共同機構研修会の講義録・DVD を見て学びませんか。一人で！ 仲間と！ 職場で！



「研修会に参加したい！」「研修会に行こう！」と思っても、職場の体制やその日の状況等で参加できないことも多々あるかと思えます。共同機構研修会の講義でお話された内容を講義録にしてホームページに掲載しています。また、講義を録画しDVDでも貸出をしています。ぜひ、[こどもみらい館のホームページ](#) ⇒ [研修・研究をご覧ください。](#)

感想より

☆ 井桁容子さん（平成30年5月16日実施）☆

♡昨年度に一度、このDVDをお借りして園内研修をしました。内容が、今、私たちが目指している保育に活かせることばかりだったので、今回は専任教諭以外の保育者とも学びを共有したいと、再度、研修を行いました。今、目の前の子どもたちに対する私たちの関わりを見直す良き機会となりました。（幼稚園）

♡DVDを見た後にグループで話し合い、まとめや意見、感想を発表し合った。事例も多く、保育士が自分の言葉掛けを振り返る機会になった。保育士、栄養士も全員で研修することができ、共感できる内容に、今回DVDを借りて良かったと思う。また利用させてもらいたいです。（認定こども園）

こんな感想も

☆ 汐見稔幸さん（平成20年7月12日実施）☆

♡先進国の子どもたちは、自己肯定感を持っている子が多いが、日本の国の子どもたちは、控えめな国柄もあり、自分に自信の無い子が多いように思う。どうしたら自己肯定感を高め、主体的に活動ができるようになるか考えていきたい。（保育園）

♡指針・要領の改定・変更についての理解も大切だが、目の前にいる子どもたちに合わせた養護的、応答的な関わりは、これからもしっかり持っていききたいと思う。（保育園）

令和2年度から共同機構研修の申込方法が変わります

FAX送信からWeb申込へ

こどもみらい館
ホームページ
研究・研修



認証パスワード
ログイン

共同機構研修
申込み

1. 『所属団体名』・『行政区』・『所属施設名』の順に選択
2. 『研修申込フォーム』に『申込人数』を入力し、『確認』し、『送信』すると申込完了
3. 『研修申込確認票兼受講票』を印刷して研修当日持参

- 研修は今まで通りご案内します。（ホームページでもご覧になれます。）
- 『認証パスワード』は研修案内にてお知らせします。
- 後日、申込確認や受講票印刷の際に『研修申込確認票兼受講票』に記載されている『申込確認ID』が必要になりますので、必ず控えておいてください。
- 『研修申込確認票兼受講票』は手書きでも構いません。

詳しくは
こどもみらい館HP
『共同機構研修』の
『申込方法』を
ご覧ください。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和2年3月19日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>